

フィボ・ストラクチャーを使った日経 225 ミニ先物分析

PART2

パンローリングでは、新サービス「**Trading Toolbox**」を開始しました。これは、ウィザードブックで紹介されている優れた戦略やインジケーターを、TradingView 上のインジケーターやストラテジーとして使えるようにする取り組みです。

その第一弾として紹介するのが「フィボ・ストラクチャー」です。フィボ・ストラクチャーはジョー・ディナポリ氏の“ディナポリレベル”をベースとしており、フィボナッチ比率（0.382 と 0.618）を利用し、上昇トレンド中の押し目や下落トレンド中の戻りを特定し、適正な売買ポイントを見つけるためのインジケーターです。このツールは時間軸を問わず利用可能で、月足・週足・日足・日中足といったあらゆる足に対応します。



さて、これを利用した分析例を、前回(PART1)は 8 月 22 日に執筆しました。この時点での分析の概要は下記のとおりでした。

実際の分析例

■トレンドの把握(8月22日時点)

(ポイント①) 下図1は、日経225ミニ先物の日足チャートです。4月7日の安値30,625から8月19日の高値43,935まで、一気に上昇した動きが確認できます。



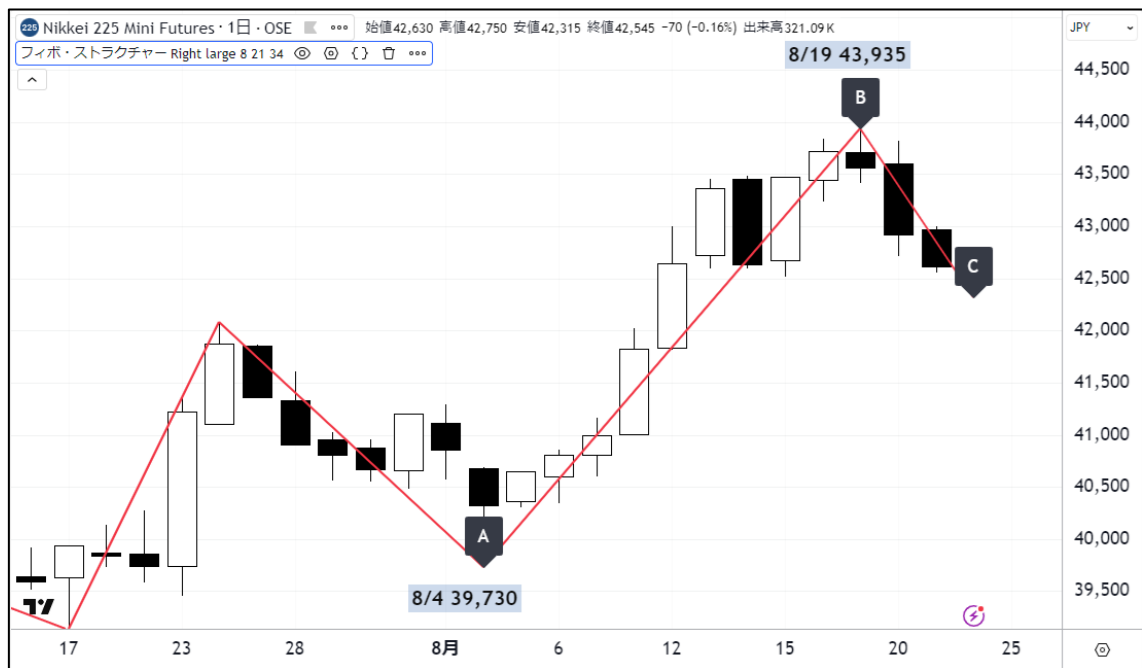
ここにフィボ・ストラクチャーを適用すると、次図2のようにジグザグのライン(赤)が自動描画され、単なる一方向の上昇ではなく、適度な押し目を伴った上昇トレンドであることが明確になります。

※このジグザグラインは最大3本まで自動表示可能です。



■直近の動きと押し目の判定

(ポイント2) 下図3では直近のトレンドを抜き出しました。



- 8月4日の安値 39,730 をラベル A
- 8月19日の高値 43,935 をラベル B

とし、そこからの押し目がラベル C です。このように、A-B-C のラベルは上昇・下落が発生すると自動表示され、現在の局面が A-B 上昇の中で、現在価格 C の押し目を探る段階であることが分かります。

■フィボナッチ比率による押し目水準

(ポイント③)ここにフィボ・ストラクチャーを適用します。

フィボ・ストラクチャーは、フィボナッチ比率を自動で表示・非表示選択することが可能です。フィボナッチ比率は、0.382 (38.2%) と 0.618 (61.8%) を押し・戻りの基準とします。今回の A-B から考えられる押し目のポイントは

- 0.382 押し → 42,330
- 0.618 押し → 41,335

つまり、浅めの押しは 42,330 付近、深めの押しは 41,335 付近が目処となります(下図 4)。



////////////////////////////////////

さて、ここからは 8 月 29 日(午前 9 時過ぎ)時点の日経 225 ミニ先物の推移(下図 5)です。



前頁の図 4 と比較すると、図 5 では **C 点の位置が変化している** ことが分かります。A-B からの押し目は、安値が更新されるたびに修正されるため、C 点はあくまで“暫定的”な位置づけに過ぎません。

ここで重要なのは、**確定した C 点を待ってしまうと、すでに相場が上昇に転じてしまい、エントリーのタイミングを逃す可能性が高い**という点です。したがってリアルタイムのトレードで活用するためには、暫定的に C 点を設定し、その時点での押し目候補を判断することが不可欠です。

フィボ・ストラクチャーは、この暫定的な C 点を自動的に描画し、トレーダーが即座に押し目候補を把握できるよう設計されています

現時点(8 月 29 日の 9 時過ぎ)では、フィボナッチ比率の 38.2%(42,330)が機能していると言えるでしょう。このように、明確な意図をもって、押し/戻りの判定を行うことが可能になります。

ターゲットとロスカットの目途

次に、ターゲット(目標価格)とストップ(ロスカット目途)を把握しておきましょう。

①ターゲット(目標価格)の考え方

最初のターゲットは、8月19日に記録した史上最高値 43,935 の突破です。これは多くの投資家が意識する直近の上値水準です。

しかし、その後の「次の目標価格」は価格だけでは分かりません(史上最高値突破なので)。そこで有効となるのが、ジョー・ディナポリ氏が提唱した **フィボナッチ拡張分析(Expansion)** です。この分析では、過去の値動きから相場が「次にどこまで伸びるか」の目途を数値で算定できます。

②フィボナッチ拡張分析(エクспанション)

下図 6 をご覧ください。



チャート右上に赤いラベルで示されている3つの水準が確認できます。

- COP (Contracted Objective Point) = 44,715
- OP (Objective Point) = 46,320
- XOP (Expanded Objective Point) = 48,920

Retracement (押し・戻り分析) が「調整をどこで拾うか」を示すのに対し、Expansion (拡張分析) は「相場がどこまで伸びるか」を目標として提示します。

③COP・OP・XOP の計算方法

拡張分析では、A 点 (安値) から B 点 (高値) までの値幅を計算し、その値幅を C 点に加えることで目標値を求めます。

- COP (Contracted Objective Point)

$$\text{COP} = C + 0.618 \times (B - A)$$
- OP (Objective Point)

$$\text{OP} = C + 1.000 \times (B - A)$$
- XOP (Expanded Objective Point)

$$\text{XOP} = C + 1.618 \times (B - A)$$

拡張分析でも、フィボナッチ比率が利用されます。

今回のケースでは、A 点 = 39,730 (8/4)、B 点 = 43,935 (8/19)、C 点 = 42,115 を基準に計算すると、

COP = 44,715、OP = 46,320、XOP = 48,920 という目標価格が得られます。

※拡張分析の価格は、チャート上に表示・非表示を選択することが可能です。

④リスク管理 (ロスカットの目途)

ロスカットについては、前回のレポートでも指摘しましたが、**C 点の安値割れ**や Retracement の 0.618 水準割れ (41,335 付近) がロスカット目途になります。

ディナポリ氏の相場分析理論を具現化した「フィボ・ストラクチャー」は、Retracement (押し・戻り) と Expansion (拡張分析) を組み合わせることで、相場の転換点やターゲットを数値的に示すことができます。

特に、COP・OP・XOP といった利確ポイントを段階的に設定できることに加え、C 点の割れや Retracement 0.618 の水準を損切り基準とすることで、利確とロスカットを体系的に組み合わせた戦略構築が可能となります。

以上